

2021年11月2日

中国における電力不足について

本年9月から、中国が**能耗双控**（エネルギー消費総量を抑制するとともに、エネルギー消費効率の改善を図ることにより、エネルギー消費をダブルで管理していく政策のこと）を実施以来、中国の電力不足に加えて、燃料（石炭、天然ガス）など原材料の供給不足と高騰によって、多くの工場が操業を停止しました。以下は各地の現状です。

- ※ 陝西省では、本年12月31日まで電力制限を実施し、電力消費を規制します。
- ※ 四川省では、非必須物資の生産を一時停止します。
- ※ 山東省では、毎日9時間の停電施策が実施されます。
- ※ 江蘇省では、本年12月までの期間に、平均10日間の作業日当り5日間の停電施策が実施されます。
- ※ 浙江省では、3カ月のうち20~30日間の停電施策が実施されます。

こうした各地の状況から、中国の電力不足が相当に深刻化していることがわかります。

中国の電力危機の要因については、短期と中長期の要因があると見られています。

1. 短期の要因

大気汚染を抑制するために、「脱石炭」の動きが活発化して、火力発電の足枷となり、「**能耗双控**」の達成にむけて、電力供給に規制をかけたことで、9月頃からより深刻な電力不足が表面化するようになりました。さらに、オーストラリアのモリソン首相が、コロナの発生に関して、中国における国際調査の実施を要求したことに対して、態度を硬化させた中国当局は、報復措置としてオーストラリア産の石炭などの禁輸措置をとりました。このため、中国における火力発電は原料である石炭の供給不足に陥るようになりました。その後、新型コロナウイルス感染者数の減少と景気回復によって、各種原材料の需要は大幅に増え、石炭の価格は持続的に上昇するようになりました。中国の発電部署と石炭発掘企業との間では、長期の石炭電力協定が締結されていますが、石炭価格の高騰によって、契約の履行が困難となる事態にも陥っています。

2. 中長期の要因

中国政府は、2030年までに**カーボンピーク**（CO₂排出量のピークアウト）*、2060年までに**カーボンニュートラル****（排出量実質ゼロ）という2つの**カーボン**の削減目標を掲げ、化石燃料による発電からグリーン発電（風力や太陽光発電）へ、発電方式の転換を推進し、企業の「**能耗双控**」実行への圧力を強めています。

2つの**カーボン**の削減目標は中国の国家戦略であり、電力と生産の制限は2つの**カーボン**の削減目標を達成するための重要な戦略手段です。これらの戦略は、英国グラスゴーで開催されている、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）において、主導権を獲得し、さらには気候分野において、中国の信頼度と指導力を高めることに寄与していくと報じられています。

電力と生産の制限は、結果として時代遅れの生産能力とローエンドの製造を淘汰するとともに、エネルギー効率を改善し、低エネルギーかつ高収益の国家体制を実現するとも言われています。

いずれにしても、今月も電力と生産の制限は依然として続き、原材料の市場価格の高騰が続くことが見込まれます。

引き続き情報を収集し、新しい情報を入手いたしましたら、ご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上

.....

* : CO2 排出ピークアウト

中国が 2030 年までに石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の燃焼、工業生産プロセス及び土地利用の変化と林業などの活動で生み出す温室効果ガスの排出量をこれ以上増やさずに、ピークに達するようにすることを指す。

** : カーボンニュートラル

一定期間内に直接的または間接的に生み出す温室効果ガスの総排出量について、植樹・植林、省エネ・汚染物質排出削減などの方法を通じて生み出す二酸化炭素の排出量と相殺し、CO2（二酸化炭素）の「ゼロ・エミッション」を実現することを指す。